

児童のねらいにそった視聴覚機器の活用

～児童自身が機器を選択し、活用する授業を目指して～

村山市立楯岡小学校 早坂 和重

1 テーマ設定の理由

コンピュータの整備が進み、児童は小学校の低学年から授業の中でお絵かきソフトで絵を描いたり、文書作成ソフトで招待状を作成したりしている。その中でコンピュータの基本操作・周辺機器の扱い方を学び、コンピュータに親しんできている。

学年が進み、中・高学年になると調べ学習を行う際にインターネットを活用することも多い。また、調べた結果をまとめること、発表や発信のためコンピュータを使うこともある。

そうしたこれまでの経験から、児童はコンピュータがさまざまな事のできるマルチメディアであることを知っており、良くも悪くも「コンピュータ＝万能の機械」と信じている面も見られる。

しかし、普通の授業を振り返ってみると、どうも「コンピュータの活用＝調べ学習＝インターネット」という図式、そして「インターネットで集めた情報を丸写しし、発表し、調べ学習終わり」という単純な流れから何かもうひとつ抜け出せていない感じがする。そこで、コンピュータに限らず、授業の具体的な場面での視聴覚機器の活用法を研究していくことにより、授業がもっと児童主体の活気あふれるものになればと思い、この研究テーマを設定した。

2 研究の仮説

「効果的な視聴覚機器の活用」を考える時、大きな2つの方向性が考えられるのではないだろうか。

- 1 他者が、ある情報を児童に効果的に伝えるための利用（他者発 - 児童行き）
 - 2 児童が自分の思いや考えを他者に効果的に伝えるための利用（児童発 - 他者行き）
- OHP・VTR等の整備・利用の中で1のよ

うな機器の利用方法は研究が進められてきている。

また、2については学習したことを発表する場面でコンピュータやプロジェクターなどが使われ始めている。しかし、目的にそった機器利用という点でどうかと振り返ってみると、機器利用そのものが目的になっているような時がある。これらのことから研究の仮説を次のように設定した。

教師が視聴覚機器を学習活動で活用することで児童も機器の活用に意欲をもつことができるのではないか。

例：操作の仕方が分かる・使い道に気づく・有効性を感じる

視聴覚機器の持つ多様な機能にふれることで、児童は自分の発表内容に合った機能を選択できるようになるのではないか。

3 研究の方法

？ 年間計画について

前半は「機器でどんなことができるのか」というイメージを持てるようにする」ことをねらう。そのため、教師は視聴覚機器を意図的に利用するようにする。また各教科の学習や総合の時間を通し、自分達の「伝えたいこと」をクラス全員に分かりやすく伝えるにはどうしたらよいかを考えられるようにし、機器にふれる・使ってみる経験を増やしていくようにする。

後半は「前半で見聞きしたことを生かし、情報を効果的に伝えることができるようにする」ことをねらう。そのため「何のために」という機器利用の目的をしっかりと持ち「何を使うか」吟味することを大切にしたい。目的を達成するための手段の一つとして視聴覚機器が生かされるようにしていく。

？ 16年度の年間研究計画

月	ねらい	教科 単元・内容(授業場面)	機器の活用	
5	多様な情報提示の方法にふれ、その機器の特徴と用途を知る。	国語 詩の制作	使いそうな機器をその都度使用していく。そしてそれぞれの長所・短所を知る。	
6		社会 米作り調べ学習		
7		社会 水産業調べ学習		
8		総合 村山発信調べ		
9	機器を選択・活用し、自分の思いや考えを表現する。	社会 これからの食糧生産	発表のねらいに合った機器・機能の活用	
10		研究計画の見直し		
11		社会 自動車調べ		
12		社会 自動車をつくる工業発表		
1		総合 中間発表会		
2		社会 放送・ニュース作り		
3		社会 ニュース放送		
4		社会 工業地域調べ		
5		社会 工業地域発表		
6		総合 発表資料まとめ		
7	総合 最終発表会&発信			
8	研究のまとめ			

普段授業をしていて、こういうものがあればよいという記録を蓄積し、それにあった機器やソフトを探すようにする。

4 実践

(1) 単元 「村山発信」(総合的な学習の時間)

(2) 子どもの実態

社会「米作り」の調べ学習で発表の機会を設けた時、次のような様子が見られた。

分かりやすく、楽しい発表にしようと寸劇を取り入れる工夫をしている。

資料をそのまま読む。

資料を拡大コピーする。または大判用紙に時間をかけて書く。

準備が発表に間に合わない。

上記の の課題をクリアするために、視聴覚機器を利用することは有効ではないかと考える。機器を利用すれば発表資料を手軽に作ることができるからである。

(3) 目指す子どもの姿

<主体的に考える子ども>

課題を見つけ、調査・検討し、課題に対する自分の意見を持つ子ども

<互いの考えを大切にする子ども>

「自分の言いたいこと」と「相手の言いたいこと」を大切にする子ども

(4) 単元について

単元設定の理由

調べ学習には「**テーマ設定**」「**調べる**」「**まとめる**」「**発表する**」という活動の流れがある。しかし、発表の様子を見ていると発表後の質疑応答がいまひとつ盛り上がらない感じを受ける。それは聞いたことがただの刺激でしかなく、子どもの中で生きて働かせる情報にまでに達していないからではないかと考える。この部分、言い換えれば主体的に考える力を高めることをねらって本単元を設定する。各段階を「**イメージする**」「**活動する**」「**形にする**」「**発信する**」と捉え、それぞれについて考えてみた。

「**イメージする**」段階は意外と時間がかかるのではないかと思う。はじめに「やるぞ」

と意欲を持って設定していたテーマも実際の調べ活動が始まると変更したくなることもあるし、修正を余儀なくされることもある。今まで「楯岡」という学区の中で学んできた事を生かし、「村山」まで範囲を広げることで、テーマ設定の難しさやおもしろさを感じられる機会を増やしたい。

活動する段階は、テーマに沿って「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どのように」など具体的な活動を展開していく段階である。村山まで範囲を広げることで、依頼状や感謝状を書いたり、電話・メールでやり取りしたりする機会が増えるのではないかと考える。ただ、これらの手段の手軽さは時として相手への思いやりに欠ける危険性を含んでいる。これらの間接手段を使うことを通して人対人の関係をより深く考えることができるようにしたい。

形にする段階は特に重要ではないかと考える。この段階が資料の丸写し、もしくは抜粋では児童の思いが何も入っていないものになる。そのため、発表して終わりという流れに陥りやすいのではないかと考える。この段階を児童の思いが入った活動にしたい。全員が4年生の時に村山の名所(三難所)に行き、名物(そば)を作った体験をしている。本単元ではこの部分が何かを作るという形になるのではないかと予想される。活動を振り返ることで、また次の活動へのつながりや意欲が出てくることも考えられる。試作品などを作り試行錯誤を繰り返すことを大切にしたい。

発信する段階では受け手のことを考えるのが重要になる。特に「伝えたい」という気持ちを大切にしたい。言いつばなし、聞きつばなしでは次に何も始まらない。「だれに」「何を」「どのように」発表するのか意識して計画・発表し、質問や意見を交換する時間を大切にする。まとめる段階で同じように試行錯誤した経験を持つ子ども達であれば、自分の経験と発表内容を結びつ

け、自分なりの感想や意見を持つことができるのではないかと考える。また、村山のことを発信する活動を最後に設け、村山と自分の考えをアピールする活動の中で地域に誇りが持てるようにしたい。

全体テーマ・個人テーマに関わることについて

- ・ 全体テーマ「学習指導における効果的な視聴覚機材・教材の活用」について

効果的な機器の使い方については授業の中で紹介・指導していく。そのことで児童が機器活用のイメージを持てるようにする。

- ・ 個人テーマ「児童のねらいにそった機材の活用」について

機器を使う中でも主体性の育成をねらいたい。成功や失敗の経験を積むことで、児童が「～したいので～を貸して下さい。」「～するには何を使えばいいのですか。」と行動できるようにしていきたい。例えば、充電状態を確認し、使用予定日に使えるよう充電しておかなければ、撮影途中で多数のハプニングがおこることが考えられる。細かいことだが、機材は人間が準備するものである。使用準備一つにも計画性が必要であり、主体的に考えることをねらっていけると考える。



「村山発信」クラス内での最終発表会の様子

5 活動の実際 総時数 70 時間

次	学習活動	支援(○)準備物()
イメージする	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度の総合のねらいについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 表現力, 体力, 自主性が高まるようにしたい。 ○ どんなことがしたいか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 村山のことを調べて全国にアピール。 ○ 自分のテーマを決める。 <ul style="list-style-type: none"> ・ まず何をしたいかな？ ・ 実際に行ってみたい。見てみたい。聞いてみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの課題を明らかにし, 3つ程度に簡潔にまとめる。 ○ 児童の思いを大切にしながらゆるやかに舵をとる。 ○ 一人一人の「どんなことがしたいか」の思いを大切にする。 ○ まずは対象にじっくりふれる中で課題がはっきり見えるようにしたい。
活動する	<ul style="list-style-type: none"> ○ テーマにそって活動する。 <ol style="list-style-type: none"> 1 徳内祭り班 学校や家のインターネットで情報収集。パンフレット集め。 2 田字草班 沼に行く計画を立て, 現地調査。大倉小学校から情報収集。 3 亀の甲煎餅班 せんべい工場に行く約束をとり, 見学, お礼。 4 パラ公園班 公園に行く計画を立て, 調査。 5 そば班 お店に行き, 試食。3種類を栽培。 6 橋山石班 現地調査や図書, インタビューで情報収集。 7 オオムラサキ班 現地調査や図書, インタビューで情報収集。 8 最上徳内班 博物館に行き, 情報収集。 9 橋岡城班 市立図書館に行き, 資料収集。最上義光歴史館に行き, 情報収集。 10 チョウザメ班 図鑑やマンガで情報収集。 11 クアハウス班 図書, インターネット, パンフレットで情報収集。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;">    </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中間発表会を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表の仕方の課題やこれからの活動のイメージが見えたぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校外での活動を他の班にも積極的に紹介し, 活動のイメージが持てるようにすると共に, 意欲を高めたい。 <p style="text-align: center;">デジタルカメラ(以下デジカメ), 各班へCD-R 1枚(データ蓄積用)</p> <div style="text-align: center;">  <p style="text-align: center;">Here</p>   <p style="text-align: center;">Here</p>  </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中間発表会で出された感想・質問・意見を今後に生かせるようにメモを取っておくようにする。 <p style="text-align: center;">プロジェクター, パソコン</p>

- 中間発表会での課題を基に活動する。
 - ・ こんなものを作りたいな。
- 楯山探険を行う計画を立て、実行する。
 - ・ どの順番で回れば時間内に回れるかな。
 - ・ これは撮っておこう。
- 最終発表に向けて活動する。
 - ・ 言いたいこと・やりたいことはこれだ！
 - ・ まず発表の骨組みを検討しよう。
 - ・ 何を使って発表したら伝わるかな。
 - ・ ~をしたいから、このように発表しよう。 そうだ！



うーん



- これからの活動のイメージをしっかりと持てるようにする。
- 探険計画も自分達で立てる。
 - 携帯電話・携帯救急箱・デジカメ
- 言いたいこと・やりたいことを考えることで、発表のねらいをしっかりと確認できるようにする。
- 材料・物の準備をしっかりとできるように活動の計画と反省を大切にする。

< 班別一覧表 >

班(テーマ別)	人数	言いたいこと・やりたいこと	試行錯誤してきた点・悩んだ点
1 徳内祭り班	2	村山の文化をのぼりにデザイン	文化とは何か、古いものってよく分からない...
2 パラ公園	3	パラの入ったお菓子を開発	パラをお菓子にできるのか、パラの色を出したいが...
3 亀の甲煎餅班	5	亀の甲煎餅のよさを生かした新しい煎餅作り	ぱりっとした煎餅にならない...また、型をどうやって作るか。
4 そば班	4	さらに健康的な新メニュー作り	栽培はしたが枯れてしまった...そば打ちがうまくできない。
5 最上徳内班	2	最上徳内の肖像画(想像)	資料の言葉が難しい。顔をリアルに描きたいが...
6 楯山石班	3	七つの石とこれからの楯山に親しもう。	楯山石をどう生かしていくか。
7 楯岡城班	3	なぜここに城があったか・楯岡城復元	資料が難しく読めない。くわしい人に聞きたいが...
8 カモシカ班	3	カモシカと豊かな自然環境	カモシカを通して村山をアピールするには...実物大のカモシカを作りたいが...
9 オオムラサキ班	2	オオムラサキの現状とこれから	オオムラサキを通して村山をアピールするには...リアルな模型がなかなか作れない...

形にする

各班への活動費

発信する(本時)

- 最終発表会(本時)
 - ・ 言いたいことが伝わるとういいな。
 - ・ この班の発表はおもしろいな。
 - ・ なるほど。グラフが分かりやすい。
 - ・ 私達も~をつかってみたい。



~と考えると



えへへ

- 発信する。
 - ・ ポスターを作り、発信する。
 - ・ お菓子やさんに試作品を紹介する。
 - ・ 教えていただいた方に活動を報告する。
 - ・ 博物館に展示する。

- 中間発表会を思い出し、発表会で大切なことを確認して会を進めていく。
- 機器の準備についてもできる部分を児童に任せていく。ただパソコン操作については教師が行い、意図した発表ができるようにする。
 - 児童が使いたい機器
- PCサポートの方や視聴覚主任に相談し、ホームページにアップする。
- お世話になった方へのお礼や報告がしっかりとできるようにする。

6 今年度の研究の成果と課題

(1) 成果

- ・ 年間計画を立てることで、機器を利用するチャンスを逃すことなく少しずつ指導することができた。
- ・ はじめはデジタルカメラやビデオカメラを直接プロジェクターにつないで発表していた。この方法は手軽で人気だった。しかし、紹介したい写真の枚数が多くなると待ち時間が多くなったり、手ぶれやピンボケが生じたりした。そこで「スライドショー」のよさに気付き、パワーポイント等のソフトを使用し、スライドを組むグループが出てきた。視聴覚機器やソフトのそれぞれのよさへの気付きがうまれた。
- ・ 発表会では他の班の発表を見聞きすることで互いの発表のよさを取り入れるようになった。自分達が気が付かなかった新しい機器利用の仕方を学ぶ機会になった。1年を通し活動したことで機器を効果的に利用した発表ができるようになってきた。
- ・ 手描きの資料がそのまま使えるスキャナの便利さに気付き、図を使いながら説明する児童が増えた。聞き手からも「分かりやすい」と人気だった。
- ・ いままでは機器を食わず嫌いしていた子も便利さに気が付き積極的に利用するようになった。

(2) 課題

- ・ 情報を集める際に「資料はあったが難しく読めない」「読み方は分かるが意味までは分からない」と困っている児童が多かった。幅広い児童の課題に1人の教師では応えきれない部分があった。
- ・ ねらいによってどんな資料を示すかも変わってくるが、撮影・製作した静止画・動画を学校でサーバー等に一括保存しておくようにすると情報が共有される。
- ・ 発表に関わっては、音声言語能力もかなり重要だと感じた。その面でのレベルアップを各教科の授業で意識して指導していく必要がある。

7 2年間の研究を終えて

○ 子ども発 他者行きの学習を目指して

2年間一貫して「子ども発 他者行き」の機器利用を目指してきた。

1年目の研究で次のような課題が見つかった。「苦手意識を感じている一部の児童に意欲を持たせることが難しかった。ただ単に機器を使わせる授業でなく、機器利用のよさを強く感じられるような年間指導計画を立てるとよいのではないか」

そこで今年度は年間計画を重視した。特に各教科と総合の時間の結びつきを視聴覚という点で見ることは自分にとって新たな視点だった。

例えば、こんなことがあった。「自動車をつくる工業」についての学習で「古い自動車をみんなに見せたい」というねがいを持った子ども達がいた。その子達はビデオを直接プロジェクターにつないで発表した。しかし、手ぶれなどでうまくいかなかった。後日、同じ子が総合の時間に発表した時、今度はデジタルカメラを直接プロジェクターにつなぎ発表していた。前回見つけた課題を見事に克服していた。このように、子ども達の様子を見てみると各教科で学んだことを総合の時間に生かしているなあと感じる場合もあったし、その逆も多かった。

2年間の研究を通し、視聴覚という切り口から改めて総合の時間の意義や子どもの持つ力を感じることができた。このような機会を与えていただき感謝している。



探険する最上徳内（想像画）
総合「最上徳内研究チーム」作